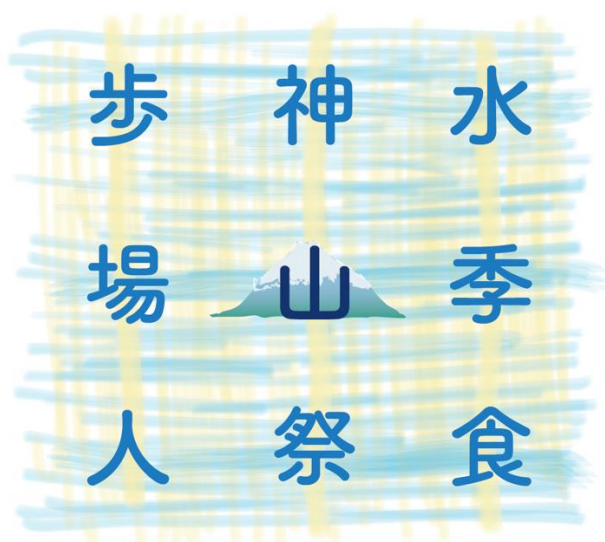


富士吉田の楽しみ方の スタイル・ランゲージ



2025年1月

慶應義塾大学SFC井庭崇研究室 × 富士吉田市

富士山が見える散歩コース

富士山が見える道を選んで散歩する。同じ道でも、時間帯や季節で変わる富士山の表情とまちの風景を楽しむことができる。

富士吉田の二つのまち

上吉田と下吉田、二つの地域の違いを感じながら、まち歩き。富士山信仰が息づく上吉田、機織りが盛んな商人のまち下吉田。二つのまちのそれぞれの雰囲気に入る。

色づきの違い

下吉田と上吉田で少しズレている季節の変化を、ダブルで楽しむ。下吉田から上吉田にかけて寒暖差がある富士吉田では、桜や紅葉の見頃が違い、長く楽しむこともできる。

富士山モチーフ探し

まちのあちこちにある、富士山モチーフを探しながら歩く。よく見てみると、信号機、マンホール、商店街の旗など、ふとしたところにいろいろあるよ。

カフェ探索

個人経営のカフェが点在している富士吉田で、小径に入ってカフェを探す。看板のないお店もあり、富士吉田のカフェ巡りにはまるで宝探しのような楽しさがある。

昼間の西裏路地さんぽ

迷路のような西裏の路地を、昼間に探検する。角を曲がるたびに、暗い夜の中では気づかなかった新しい発見がある。昔の看板が残るレトロな風情も。

東裏タイムスリップ

織物の商いの中心であった東裏の路地裏に入っていく、レトロなまち並みのなかを歩く。昔ながらの建物が並び、昭和に戻ったかのような雰囲気で、当時の賑わいの声が聞こえてきそう。

ハタヤさん見学

織物をつくる「機屋（ハタヤ）さん」を見学して、機織りの音に耳を澄ませる。職人とお話しして、ハタオリマチの歴史や、こだわり、時代に合わせた新たな挑戦などを聞いてみる。魅力的に感じたら、その場で織物を買うこともできる。

野鳥との出会い

鳥たちの声が聞こえたら、その方向に目を向けてみる。森にはフクロウやアカゲラ、まち中にはオナガやキジなど、珍しい野鳥にたくさん出会える。（アカゲラは、市の鳥です！）



神様とともにあるまち

まちを歩きながら、神様を近くに感じる。富士吉田には、いたるところに神社や鳥居、祠（ほこら）がある。道端にもたくさん道祖神がいて、「護られている」と実感できる。

富士山への入口の神社

吉田口登山道の入口である北口本宮富士浅間神社を散歩する。神社の境内に入れば、そこは富士山の聖なる世界に通じる場所。朝には、清々しい空気のなか1日の活力を得られ、夜には、静かで幻想的な空気に触れられる。

御師（おし）の宿

昔、富士山信仰のお手伝いと祈禱をしていた御師（おし）の家に泊まってみる。巨大な祭壇や身を清めるために使っていた川など、富士山信仰の歴史を垣間見ることができる。

伝説めぐり

いろいろな言い伝えがある富士吉田で、伝説にちなんだ場所をめぐってみる。中国から不死の薬を求めてやってきたといわれる徐福の像や、日本武尊が立ち寄ったとされる大塚丘などをまわりながら、この地に眠る歴史に想像をめぐらせる。

金運がアップする神社

日本三大金運神社として金運上昇で有名なパワースポット、新屋山神社へお参りに。森のなかにひっそりと佇む奥宮で、澄み切った空気を吸いながら、金運もアップするなんて、最高。



どこでも聴こえる水の音

まちの至るところで聞こえる、富士山からの川の水の流れに耳をすませる。坂の勾配が異なるので、上吉田と下吉田の水の音には違いがある。

おいしい水道水

蛇口をひねって、水道水をそのまま飲む。富士山から流れてきたおいしい水を飲んで、自然の恵みを感じる。富士由来のシャワーを全身で浴びるのも楽しみのひとつ。肌や髪の手調子が整う人もいる。

富士水喫茶

富士山の水で淹れられるコーヒーや紅茶の、ピュアですっきりとしたおいしさを味わう。使っている水道水がおいしいから、それで作る飲み物もおいしくなる。

富士水クッキング

富士山の麓の水を使って、料理をしたり、氷を作ってお酒を飲んだりする。澄んだお水からできた料理やお酒とともに、幸せな食卓を囲む。

富士山の湧き水

まちの水汲み場へ、湧き水を汲みに行く。小室浅間神社や道の駅などにある水汲み場から、汲みたての水を持ち帰り、コーヒーやお茶を淹れて味わう。霊性が宿ると言われる湧き水もあり、お肌にも良いとされている。

おいしい空気

窓を開けて、外の空気を思い切り吸い込む。富士吉田の空気は澄んでいておいしく、清々しい気分になる。

古い建物の味わい

古くからの建物を活かした空間で、ほっと一息。富士吉田には、古民家や蔵屋敷などの昔の建物をリノベーションした施設が多い。昔と今が混ざり合う空間は、不思議と心地よく感じられる。

まちなかのフジファブリック

富士吉田から生まれたバンド、フジファブリックのメロディを、まちで聴く。下吉田駅では、ホームでフジファブリックの曲が流れる。まちのチャイムとして流れる期間は、まち全体がフジファブリックの世界観に包まれる。

富士とまちと忠霊塔

忠霊塔の裏のデッキに立ち、富士山、まち、忠霊塔が一体となった壮大なパノラマ風景を味わう。そのコラボレーションは、どの季節でも心に染みる。

芝生でのんびり

芝生が広がるパインズパークで、家族や友達とのんびり過ごす。寝転んだり、ピクニックをしたり、ボール遊びをしたり、自然に囲まれながら、穏やかな休日を。

ふらっと富士急

無料で入場できる富士急ハイランドに、ふらっと寄ってみる。芝生でゴロゴロしたり、コーヒーを飲んだり、日常的に遊園地の空間を満喫する。

富士山裾野の自然満喫

富士山の雄大な裾野で自然を満喫する。希少な野鳥を観察したり、トレッキングやサイクリングを楽しんだり、そこでしか味わえない貴重な自然体験を味わう。

「ぬく森」の遊び場

子どもを連れて、恩賜林（おんしりん）庭園にあるキポキポに遊びに行く。木のぬくもりを感じられる遊び場で、室内空間も充実しているので雨の日でも大満足。

ワクワク図書館

休日は、まちの図書館で楽しむ。工作教室やマジックショーなど、図書館らしくないイベントが目白押し。漫画コーナーも充実している。子どもも大人も楽しめる、ワクワクいっぱいの場所。

お気に入りの温泉

富士吉田には、富士山の絶景を眺めながら入る温泉、昔ながらの温泉、肌に効く温泉など、さまざまな温泉があるので、自分のお気に入りの温泉を見つけ、楽しむ。それぞれのコンセプトで選ぶのもよし、体の声を聴いて選ぶのもよし。

ちょっとそこまで星空鑑賞

夜、家族や友人と、少し車を走らせ、星空を観に行く。森の中の公園やキャンプ場から、満天の星空が見える。行き帰りの道では、突然現れる鹿たちに注意。



おはよう富士山

朝一番の富士山を見るために今日も早起き。澄んだ空気の中、くっきり見える富士山を拝み、晴れやかな気持ちになる。1日のはじまりに見上げる姿がいつもパワーをくれる。

押し富士

自分が一番好きな富士山の姿を見つける。通学路から見える夕暮れの富士山、駅の屋上から見える雄大な富士山、雨上がりの水たまりに映る逆さ富士など。共有し合うともっと愛着が湧いてくる。

不二の表情

季節や時間によって変化する富士山の表情を味わう。夏の赤富士、冬の紅富士。朝焼け、夕焼け、闇の中のぼんやりとした姿。変化に富んだ富士山は、いつ見ても新鮮で、つい見入ってしまう。

裾野から頂上まで

富士山全体をくっきりと見渡せるスポットで、裾野から頂上まで視線を移してみる。緑がどこまで続き、どこから荒々しい山肌が現れるのか。その境界線の上と下の二つの世界に思いを馳せる。

屋上駐車場からの富士山

買い物のときは、屋上駐車場に車を停め、富士山を望む。この場所は、実は富士山が裾野から見える絶景スポットなのだ。

逆さ富士

田んぼや池の水面に映る、逆さまの富士山を拝む。特に、農村公園から見える田んぼの逆さ富士は絶景。

窓の額縁

身近な窓から富士山を眺めると、まるで額縁に飾られた写真のよう。同じ建物でも、違う窓では、富士山の表情が違って見える。

鏡のなかの富士

バックミラーや手鏡で富士山を切り取り、雄大な存在をコンパクトな大きさと楽しむ。自分の物に映った姿を見て、自分だけの富士山を味わう。

笠雲チェック

富士山の頂上に覆い被さる雲に注目してみる。山頂付近を覆う「笠雲」に出会えたらラッキー！ただし、これは雨が降るサインなので、翌日は傘を持って行こう。

エネルギーをもらえる富士登山

神聖なる富士山に登るなかで、エネルギーをもらう。体力は使うけれども、それ以上に富士山を登ることではか得られないパワーがみなぎり、また日々をがんばろうと思う。

仕事前の山歩き

仕事前に、杓子山や竜ヶ岳など、富士山の周りの山に登ってから出勤する。それぞれの山から見る富士の姿は格別だ。

富士登山後の温泉

富士登山を終えたあとは、温泉の湯で疲れた身体をじんわりと癒す。湯に身を委ね、登山中に目にした景色を味わい浸る。

五合目までの世界

富士山の麓から登って、五合目までにある文化遺産や自然を楽しむ。馬返しや女人天上（にょにんてんじょう）、神社や山小屋などから富士山信仰を肌で感じたり、豊かな緑を味わったりする。五合目から下って、その世界を体験することもできる。

登らない富士登山体験

ふじさんミュージアムのふじさんVRシアターにて、360°の迫力映像の富士登山を疑似体験する。いつでも、どんな人でも富士山に登った気分を味わえる。すぐ近くの富士山レーダードームでは、気温-5℃、風速13mを体験できて、富士山頂上の臨場感を感じられる。

山走り

澄み切った空気を胸いっぱい吸い込みながら、山の起伏を感じるトレイルを駆け抜ける。富士登山競走やMt. 富士ヒルクライムなど、数々のアウトドア・イベントも開催されている。

山の上での富士見酒

杓子山など、富士山が見える山に、ビールを背負って登る。辿り着いた頂上で、目の前にそびえ立つ富士山を見ながら味わう一杯は格別。

富士見ダイニング

窓越しに富士山の眺めを楽しめる飲食店で、ひとときを過ごす。好みの富士山の時間帯に、その瞬間にしか味わえない格別な景色と食事を堪能する。

富士のチャイム

まちに流れるチャイムの音に、今日も耳をすませる。朝は「富士山」、昼は「ここにはいつも富士がある」と、富士を感じるメロディが流れる。時期によっては、富士吉田にゆかりのあるフジファブリックの曲が流れる。

富士山由来のナンバー

まちのなかで、車のナンバープレートに目を向ける。「富士山」ナンバーだけでなく、数字のところが「223」（ふじさん）や「3776」（富士山の標高）など、富士山にまつわるナンバープレートも見つかるかも。

富士山の方向が上

富士山のある方向が「上」という富士吉田の地理感覚に馴染む。地図も、北が上ではなく、富士山が上になる描き方になっている。

どんどん大きくなる富士山

富士吉田へと続く道のりで、富士山がだんだんと大きくなる姿を車の窓から眺める。まるで富士山が迎え入れてくれているようだ。



雪と炎

4月、富士山の「火入れ」の日にだけ見られる、山頂に残る真っ白な雪と裾野で燃え上がる赤い炎のダイナミックなコントラストを堪能する。その迫力は、まるで富士山が燃えているかのよう。

富士と桜

春、富士山と桜と一緒に眺め、和を感じる。忠霊塔からの眺めだけでなく、孝徳公園から望む景色も一見の価値がある。

麓の乙女桜

富士山の麓で咲くフジザクラを楽しむ。小ぶりで下向きに咲くことから「乙女桜」と呼ばれ、その可憐な姿が心を和ませてくれる。

初夏を呼ぶ農鳥

5月になったら、富士山の残雪がつくる鳥の形を探してみる。「農鳥」とよばれるこの鳥は、田植えの季節を知らせてくれる。

明見湖で「ハス」見

6月から8月にかけて明見湖一面に咲き誇る蓮を見に行く。早起きをして行くと、静寂の中の「ポツ…ポツ…ポツ」という蓮の花の開く音が聴こえる。

夏の赤富士

夏の早朝、雪のない山肌がすべて真っ赤に染まる富士山を眺める。朝陽が山肌を照らしていき、少しずつ赤く染まっていく様子を静かに見守る。

富士のキラメキ・ライン

夏の一日の終わりに、山小屋の灯りがきらめく富士山を見上げる。帰り道に見える光の筋で、夏を感じる。

涼みの滝

暑い季節に、鍾山の滝の涼しさを浴びにいく。涼しい心地よい風を感じると、夏の暑さも乗り越えられそうな気持ちになる。四季折々、異なる表情を楽しめる場所でもある。

冬の夜のぼんやり富士

寒い冬、1日の終わりに空を見上げれば、雪の衣を被った富士山が見える。暗くなってきた空にうっすらとみえる富士山に、1日の疲れがすーっと抜けていく。

富士の雪のくまさん

雪の降り積もった山肌に現れる、くまさんの雪形を探す。まるでくまさんがこちらに「ヤッホー」と手を振ってくれているみたい。



道端トーク

観光客が多い街だからこそ、道を歩いていると歓迎の声をかけてくれる人もいます。そのときには、いろいろとその周辺の話聞いてみるといいかも。

店員さんとのローカル話

地元のお店で、買い物をしながら店員さんとおしゃべりする。お惣菜屋さんで、食事の話だけでなく、地元の話聞いて、街に馴染んだ人もいます。

個性的な店主たち

個性豊かな店主が腕を振るう料理を食べに行く。カウンター越しに交わす店主との会話や隣り合わせた常連客との出会いを楽しむ。

西裏での人との出会い

誰かと話したい気分の夜は、西裏に足を運んでみる。一人で店に入っても、人情味あふれる店主やお客さんたちとすぐに打ち解けられる。話をしているうちに、あっという間に夜がふけていく…

富士登山者同士の縁

富士山を登りながら、同じゴールを目指して歩みを進めている人たちとつながる。「このあたりキツイですね」「景色めっちゃくちゃ綺麗ですね」と声を掛け合ったり、写真を撮りあったり。国や言葉、世代が違ってても、すぐ仲良くなれちゃう！

貯金会の仲間

伝統的な「無尽」の仕組みで運営される貯金会で、みんなで集まってご飯を食べ、少しずつ多めに払い、そのお金を積み立てていく。貯めたお金はみんなで行く旅行など、みんなで使い道を決める。



お祭りたくさん

富士吉田の伝統的な行事から、お店や個人が手がけるものまで、いろいろな祭りに足を運んでみる。新しい人やものに出会えたり、しばらく会えていなかった人とも久しぶりに会えたりするかもしれない。

アツい火祭り

富士山の神様を鎮める「火祭り」で、燃え盛るタイマツの熱さを体で感じる。点火の前には、お神輿を担ぐ人たちや世話人たちの本気の姿もアツい！

神様とつながるやぶさめ祭り

800年以上続く「流鏝馬（やぶさめ）祭り」を見に行く。小室浅間神社で、走る馬のひづめ跡から、占人（うらびと）がその年の吉凶を占う厳かな瞬間を見守る。運が良ければ、流鏝馬に使われた矢をもらってお守りにできるかも。

ハタフェスでの布さがし

ハタオリマチフェスティバルで、さまざまな柄やサイズの布との出会いを求めて散策。何を作ろうかと想像しながら、心惹かれるものを探す。



座敷でうどん

民家を改装したうどん屋さんで、かたい麺の吉田のうどんを食べる。座敷に座りながら、家族や友人とくつろいで味わおう。

お気に入りのうどん屋さん

数多くある吉田のうどん屋さんのなかで、自分のお気に入りのお店を探す。うどんの硬さや肉の味付け、すりだねやだしがそれぞれ違うので、あちこち食べに行ってみよう。自己紹介のときに好きなうどん屋さんの名前を言うのが富士吉田スタイル！

目指せ！「吉田のうどんマイスター」

新しい店を次々に開拓し、「吉田のうどんマイスター」を目指す。「吉田のうどんマップ」に掲載されている全店舗を制覇すべく、目の前の一杯を味わう。

シメのうどん

富士吉田では、締めはうどん。飲み会、BBQ、そして、結婚式の締めでもうどんを食べる。吉田のうどんでは締めた夜は、噛みごたえのある味わい深い思い出になること間違いなし。

即席で味わう吉田のうどん

スーパーやコンビニで即席の吉田のうどんを買って、自宅で楽しむ。コンビニによって味が違うので、食べ比べしてみるのもよいだろう。

西裏はしご酒

飲み屋が連なる西裏で、お店をはしごする。たとえば、おいしい焼き鳥、スナックでカラオケ、それから最後はシメの麺。明るくなるまでいられるこの場所で、気持ちの赴くままにお店をめぐる。

富士吉田の馬刺し

馬肉文化が根付いている富士吉田で、おいしい馬刺しを食べる。居酒屋はもちろん、精肉店で買って、家でも馬肉を楽しめる。道の駅には、なんと、馬刺しの自動販売機もある！

実は名物、焼き鳥

実は焼き鳥屋が多い富士吉田で、こだわりの焼き鳥を食べにいく。地元ならではの「すりだね」をつければ、つついとお酒が進み、思わず「もう一本」と声をかけてしまう。

吉田のおにぎり

富士吉田の新しいグルメ、「吉田のおにぎり」を求めてスーパーへ。吉田のうどんをおにぎりにした、地元の高校生が開発した一品。富士吉田への愛を感じる。

【謝辞】

「富士吉田の楽しみ方のスタイル・ランゲージ」の作成にあたり、富士吉田の魅力を発掘するワークショップに、住民のみなさま、のべ119人の方にご参加いただきました。また、実施にあたり、かえる舎の斎藤和真さんや高校生、関係者のみなさまに多大なる協力をいただきました。どうもありがとうございました。

【慶應義塾大学 井庭研プロジェクトメンバー】

井庭 崇（総合政策学部教授）

井上 絵里加（政策・メディア研究科）

林 聖夏（政策・メディア研究科）

足立 紗英（政策・メディア研究科）

島村 恵理（政策・メディア研究科）

田島 麗（総合政策学部）

桑高 美心（環境情報学部）

大平 美琴（総合政策学部）

※所属は、2025年1月現在

【問合せ】

富士吉田市ふるさと魅力推進課 ☎内線296